

ウオッチング 多摩ニュース

第80号

2017年2月25日
ウオッチング多摩の会

何を考えているのか!?

パルテノン多摩大規模修繕計画
予算計上見送り

市民からの様々な声をよそに市が1年前から進めてきたパルテノン多摩の80億円大規模改修計画が今3月議会には予算案の計上は見送られた。その理由として新聞報道によれば、市は「議会が5月半ばまでの期限付きで議論する特別委員会を設置したため、その結論を踏まえ、早ければ6月補正予算に改修費を盛り込みたい考えだが、20年4月のオープンが難しい」と考えているようだ。

私たちは昨年来「ちよっと待ったその80億円」の市民討論会を初め、市民アンケート調査、市長・市議会への意見書などで市民の声をひたすら届けてきた。(ウオッチングニュース78号、79号、ネットで詳細は既報)

何ひとつ変化なし 公開質問の回答

さらに市長への公開質問状とその回答を軸に特別委員会との意見交換会を2月

11日に予定していたところ、

上述の結果となったためその内容を変更するに至った。市長への質問はこれまでの経過の疑問、矛盾、不安であり、市長の回答もこれまでの説明会等で表明してきたものとは何ら変わらないため。今回のニュースでは省かせてもらった。意見交換会はこれからが重要時期と思われるため、より前向きな市民の意見を委員会に伝える会とした。

今こそ特別委員会の討議・決定に 市民の声を!

委員会の主張も「いったん立ち止まって考える」といった私たちの提案にも沿った形になり、市は「6月議会にその結論を踏まえ」としているため、委員会はそれまでに何をどうするか重要な討議・決定を行わなければならない。

私たちはこれまで繰り返し主張し、今回の

今号の特集

パルテノン特別委員会 意見交換会

3ページ

・動き出した市議会。予算ゼロの好機に何を考えるか?

意見交換会の議論に表れているように、パルテノン80億円の改修だけを問題にしているわけではない。パルテノン多摩の改修が多摩センター地区を生き生きと再生させるきっかけにならないか、と望んでいるのだ。並行して策定委員会などで検討されている中央図書館、市の新市庁舎というこれからまちを変えて行くだろう3大拠点計画が多摩センター地区の賑わいをどう創り上げていくのか言い続けているのだ。パルテノン多摩の基



原点に立ち戻ろう。公共施設の維持・改修費用が足りないはず。

本計画策定委員会、中央図書館策定委員会にしてもその個々の委員会の答申としてはベストの選択といえるかもしれないが、特別委員会は総合的に考え構想するためには住民参加も含め討議決定する場を創り出すことこそ必要である。

意見交換会の参加者24名

特別委員会（敬称略）：荒谷隆見、大野まさき、岩永ひさか、岩崎かなこ、橋本由美子
各党派から出席したが何故か自民党派かだけは来てもらえなかった。

市民・ウオッチング多摩の会 10名、他団体 5名、他市民 4名
*会場の席数の都合でお断りしました市民の方々申し訳ございませんでした。

ウオッチングの会 神津幸夫



提案型市議会こそ、市民無視の市政にストップをかけることができる。

市議会・特別委員会に 声援を送ろう！

パルテノン多摩改修問題特別委員会を設置した市議会は、パルテノン関連費用ゼロ計上の新年度予算に対して調査費を計上し、多摩センター活性化に向けた議論をスタートさせようとしています。パルテノン多摩再生にとどまらず、図書館、中央公園そして市庁舎など有機的なつながりを持つ明日の多摩センターを、市民、多摩市と討議し、協同で作り上げようとしています。今後の活動に期待し、温かい声援を送るとともに、大いに発言して市民の声を市政に反映させましょう。
特別委員会の議論は活発で、しかも各議員の主張が明確になり具体的です。傍聴してみ

ガンバッテ！



多摩市議会 YouTube
<https://www.youtube.com/user/tamashigikai>

てください。緊張感のあるやり取りが目の前に現れます。インターネットで見ることできます。
また、ウオッチング多摩の会のホームページ「公共施設問題」からも市議会のネット中継にアクセスできます。このページでは、昨年実施した会独自のアンケート調査の結果や、市会議員、市民の声がわかります。もちろん発言することも可能です。

ぜひ
ご覧ください！

公共施設問題 (パルテノン多摩 大改修についてのアンケート調査)

80億円パルテノン多摩
どう思いますか

あなたの意見を
多摩市と市議会に届けましょう

アンケート回答件数：619件

パルテノン多摩改修問題特別委員会の様子のYouTubeを「市議会の意見」にリンクしました。コメントをお寄せください。
公共施設問題特別委員会の様子のYouTubeを「市議会の意見」にリンクしました。コメントをお寄せください。



公共施設問題
ウオッチング多摩の会
<http://xviews.jp/parthenon/>

いまこそ議会の出番だ！ 期待いっぱい！

パルテノン多摩改修問題特別委員会

委員と意見交換会

特集

会の幕開けは、公開質問に対する市長回答だった

ウオッチング多摩の会(Wの会)からの公開質問状に市長の「回答」が届いたのは、たまたま会が市議会特別委員会の委員と市民との意見交換会を「からきだ菖蒲館」で開く日の前日だった。この会には9人の特別委員のうち荒谷隆見(公明) 岩崎みなこ(ネット・社民) 岩永ひさか(改革みらい) 大野まさき(同) 橋本由美子(共産)の5市議が顔を出し、ほかに19人の市民が出席したが、市長回答が最初から話のタネになったのは「昨日きたばかり」というせいでもあったろうか。

市長回答に対する出席市議や市民の反応は厳しかった。司会役で質問状の差出人でもある神津幸夫(Wの会代表)が「質問の意味が理解されなかったのか、きちんと答えても

らえなくて残念だ」と前置きしてこう話した。公共施設には2種ある。1つは must (必要不可欠)もの、もう1つは「なくても生きてはいけるが政策によって考えなくてはならないもの」だ。その区別を明確にして財政計画を立てシミュレーションをしてしつかり示してほしい、というのが質問状の趣旨だった、というのだ。

1年経っても抽象的で

変わらない

関連して鶴牧在住の参加者から声が上がった。この論議が始まってから「もう1年。それなのにこんな答えか、というのが率直なところだ。一般的で抽象的無内容とは言えないにしても何とも不思議な回答



だ。様子を見ながら対応していく、と言うんだが、いまだにこれはないよネ」。この人は続けて「新しいパルテノンをどうするのかというコンセプトなしに工事が始まっちゃうかもしれない」と危機感を口にし、出席の特別委の市議たちには「取りあえずは(この論議を)立ち止まることにしてもらった」と感謝の言葉で頭を下げた。

80億円がいかにか高額なのか

わかっていないのだろうか？

出席市議の方からは特別委の副委員長である大野市議が「1年も経っているのに、というのは実はみんなそう思っている。市が時間はないが答えていく、と言っていた中身がこれか、ということだ。市の方のきちっとした思いなりビジョンなりがここに書いてあるならもっと建設的な議論ができたはずだ」と同じような声が返ってきた。

「80億というのは大変な支出ですよ。それなのに市長回答はまるでテープレコーダーだ」と評したのは、この問題で発言を続けている豊ヶ丘からの参加者。「われわれは同じことを何回も聞かされてきた。ここには何の発展性もない。

これが80億という重要な事業のやり方についての市長の回答なんだから、これでいいかと思わざるを得ない」と厳しい指摘が続いた。

特別委員の設置は、実に画期的なことだ

この豊ヶ丘の市民はこの発言の前に議論のための問題提起をしていた。問題は80億という予算の事業に「80億という単一なプランしか出てきていない」ということだ。「市民アンケートで分かるように市民の意見は



実に多様だ。市はそれを軽く見て説得すればいいからいるよ。うだが、それはきわめて非民主的で非市民的な態度で

はないか」「市民の中にある問題意識、多様な選択肢をなんとか整理して多くの市民が納得するような方向性を決めていかななくてはならないのではないか」

そういう問題意識に立ってこの人は特別委の市議に対しても問題を出した。傍聴して「改修」という言葉をめぐって党派によって意見が分かれていることに「大いに失望」したというのだ。「特別委の設置は実に画期的なことだったが、こんなことで重要な問題で一致できないとすれば先行きどうなるか、不安になる。問題は何を検討課題にするか、それを明快にすることではないか。何とか最大限の一致点を見つけていってほしい」

この人はさらに「パルテノンはそのだけに限定される問題ではない」と別の角度から問題を出して発言を締めくくった。「公共施設をどうしていくのか、そのプログラムをどうするかという全体の問題だ。また多摩センター地区をどう活性化していくかというずっと継承してきた話が1つも出ていないではないか」。もう1つ、この人は「パルテノンは集客の吸引力を持てなかった」という事実も指摘した。そして吸引力のあるのは同時に建設が検討されている「新しい市庁舎と図書館だろう」と言った。

ニュータウンは「いい町になって欲しい」と

いう地元の人々の思いからスタートしている

ここで司会の神津が、この日初めて参加したもつと若い世代の多摩市民の意見を求めた。当然のことながらこれからの多摩市を支えていくのはこの人たちなのだ。

まず発言を振られたのは「4人の子ども」の母親で「いちばん下が多摩市生まれで今年成人式を迎える」という人。越してきてからニュータウン（NT）について「勉強した」と言った。そして自分たちは地元の人が「いい町になってほしい」という思いで土地を出して作ってくれたところに住まわせてもらっているんだ、と思った。そういう1人ひとりの意識がいい町にしていこうという思いに辿りついたら大きな力になっていくんじゃないか」。パルテノンについては「学校行事や子どもの発表会などのときに使った程度。集客力が少ないのはとても残念です」



パルテノンはロードマップのどこに位置しているのか

次は「都心に通う」現役の社会人。パルテノン問題に関して知りたいのは「市のロードマップ（行程表）のどういう位置にパルテノンがあるか」ということだ、と問題の核心に

ズバリと入った。「それが分かれば具体的に行政と議会に任せて進めてもらってもいいかもしれないし、なければ作ってほしい」。例えば「若い人が住みたくなるような魅力ある町にするにはどういう投資が必要なのか、競争の中で抜きん出るにはどうしたらいいか。そういう議論があった中で、それではパルテノンはどうか、と降りてくる話なんじゃないか」

いろんな世代の人が行くようになるように変えて欲しい

その隣の女性はパルテノンについては「子どもの幼稚園のときに使ったり友だちの発表会のときに行ったりという程度。いろんな世代の人が行くようになってくると魅力は感じられないと思う。変えるのであればその方向ではないか」と話した。「このサイズの町で、例えば『府中の森』と競争するようなものを作る必要はあると思いますか」と問われると「そうは思いません」ときっぱり。

この町は住んでいていいな。でもパルテノンはハコに対して中身が物足りない

もう1人、この町に住んで2年目の男性。「形や広さ、コミュニティの温かき、歩車分離、車でちょっと行くと豊かな自然がある。住んでいていいな」と思っているという。パ

ルテノン問題が起こったときには、そういう素晴らしいの一方で「なんでこうなるんだ」と思った。パルテノン自体は日常的には前を通るくらいだが「ハコに対して中身が物足りない。建物自体も見た目には普遍的ではなくこのまま維持していくにはあまり誇れるものじゃないと思う」と率直だった。

来年度の当初予算はゼロは、議会で通らないと先読みしたから

この後に出席市議からの発言が続いた。まず**橋本市議**。市の来年度予算案にパルテノン関係費が盛り込まれない事情を聞かれて「議会で賛成が半分にならないと市長が先読みした(笑い)からですよ」と単純明快な答えだった。橋本さんはパルテノンについては「イノベーションして残してこういう立場だった」

のに新年度の予算案にはこの関係の経費は盛り込まれない



いことになった。「(市は)もつと話してくれればいいのに、と納得していない」。橋本さん自身は「コンサートの途中で停電しないような、必要なところには手当をしてという程度のことでも掛かってもせいぜい38億くらいと想像していたのに、それがこんなことになった」

改修費については、先の豊ヶ丘の人からこんな話が出た。「何だか突然に74億になった。何か言われるとドサクサまざれになし崩的に作業するんですね。これではアンフェアだ。市議会軽視、市民軽視ですよ」。80億が74億になり、となると65億が攻防戦か、という声がチマタにはあるようだ。「これはおかしい。議会はキツチリとクレームをつけてほしい」。

いろいろな選択肢が必要と11月に図書館との合築案を提出した

荒谷市議はこう考える。この問題で市は専門家に市民代表を加えて基本計画策定委員会で議論を重ねてきているが「その議論を聞



いていてこの話を進めても活性化にはなっていない。80億を投じてでもそれに見合う中身にはならない」と判断した。そういう考えを含めて要望書を11月には市長に出している。「市長はいろいろな選択肢を含めて市民の話を聞き直してほしい」。神津に「改修計画は」立ち止まって考えよう、ということになったが、市には基本的なところに立ち戻って市民の話を聞き直してやり直そうという選択肢はあるのか」と聞かれて「それはない」と言下に一言。荒谷氏がこう断言すると、会場には何とも言えない笑いが広がった。

活性化の3大拠点、パルテノン・図書館・市庁舎の総合的検討を！

「活性化」に関連させて神津が「パルテノンだけを切り離して論じていてもしょうがない」と問題を出した。「活性化の3大拠点」とするのはパルテノン以外に中央図書館と多摩市の新庁舎。この3つを「合わせて総合的に検討してセンター地区の活性化につながる案を練ってほしい」

岩崎市議によれば新市庁舎には候補地が3つあり、審議会などでいちばんポイントの高いのが三越の北側の土地。中央図書館も「待ったなし」らしい。岩崎さんは「パルテ

ノンの中に図書館が入るのがベターなんじゃないか」と考える。「図書館に行くのは人が何かを求めている時ではないか。そういう人たちにパルテノンに足を運んでほしいという感じがある」

「これは長丁場の問題だから将来の市庁舎を展望して当面何を考えるかが重要だ」と豊ヶ丘の人が続けた。「集客と言うなら三越が撤退した後図書館を入れるくらいの英断をしないと人なんか集められるわけがない。活性化と言うなら30年間の反省と総括のない能天気な拠点論なんかやめてほしい」80億という巨額支出について「パルテノン大改修」というたった1つの案しか出されていない状況について神津が言った。「今は立ち止まって考えることになっているが、行政に議会は何を考えているか案を出してくれと言われた時に団結して提案する可能性は？」と聞かれて**岩永市議**が「例えば、パルテノン多摩の中に図書館を入れるというような案はいくつか出ている。もともと改修について複数の案を出してほしいとお願いを



した経過もある。でも、行政の「複数案」というのは、一つの提案に対する金額の「松竹梅」であって、こちらが要望している「複数案」ではなかった。実は当初の段階で示された改修方針でほぼ改修内容は決まっていた（ので「複数案」はありえなかったのかもしれない）」

80億円かけるなら改修でなく再生だ。その意気込みがない

「全体として何が問題なのか」と、ここまでの話を聞いていた鶴牧からの参加者が立った。「80億の改修なんてないと思う。それが問題なんじゃないか。80億かけるなら改修じゃなくて再生でしょう。委員会も『再生特別委員会』にしてほしい。80億かけてこの町をどうやって再生させていくかという問題なのに、市長の回答にしてもその意気込みがまったく伝わってこない」。例えば三越がなくなるとみんな寂しくなる。いつまでもここに住んでいていいのかという気分にもなる。だったら「こうすればセンター地区は活性化していくよ」と、そういう議論ではないのか」

もう1つ。21世紀のデモクラシーという大きなテーマに絡めての発言もあった。永

山からの出席者からだ。パルテノン問題がこのテーマに関わってくるというのだ。「20世紀のやり方そのままでは解決しないでしょう。どうすれば市民が幸せになれば、なるほどと思わせるようなことができるのか、そう評価されるようなデモクラシーの形を作ってもらいたい」。

議員が政策提案するために行政職員を使うべきだ

最後に、議会としてどう提案をしていくべきか、という話になった。具体的にはスタッフのいない議員の政策活動についてだ。

このテーマについて先の豊ヶ丘の人は「議会としての政策提案に関する作業は行政にさせるべきだ」という意見だった。「(議員の)みなさんが出している意見は市民の間にある重要な問題意識だ。それを政策の選択肢としてまとめて市民の議論として持ち込むことはとても重要だと思う。それについて具体的な作業を行政に要望して指示していく必要がある」

神津が補足的に「多摩市長には800人のスタッフががいるが議員にはいない。スタ

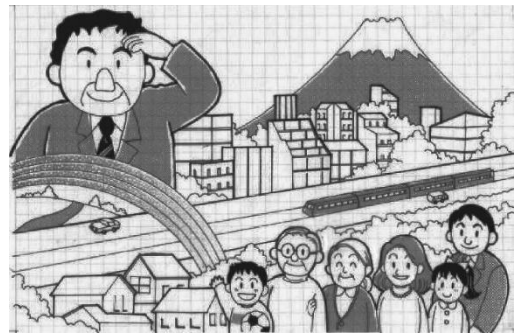
市民14万人全員が
ウォッチャーであり
サポーター!

ップとしての市の職員は市民が選んだ市長の方針の手足となって政策を作り出していく。そのスタッフを議員が使えるような形が必要なんじゃないか」と展開していった。その場合「議員が政策提案をしていくために行政のスタッフを使うこ

とは可能なのか。行政と対立するような政策の場合はどうか」

この問題について豊ヶ丘の市民の意見は「行政は2元代表制を尊重するという立場だから当然やるべきことだと思う」。そして出席市議には「どうか頑張ってください」

現在、市が議会や市民の要望を入れた形で新年度予算案にはパルテノン関係の予算は盛り込まず「暫時休憩」の状態だ。しかし一方で、早ければ6月議会に補正予算で出してくるという見方もあり「とすれば補正でも何でも出させないことがいちばんいい」という声も、この会では当然出てきていた。この間、市がここで話されてきたように「市民の話を



聞き直そう」とせず、唯一の市案に固執して基本的な方針を変えず、市議会の多数派工作によって補正予算を成立させようとしていくとすれば、話はどうなるか。

7月には都議選が、来年には多摩市長選がある。神津が「多摩市民としてはいま直面しているパルテノン問題をテーマにしたい気分ですね」と言うと「市民税も都民税も払っているからね」という声が出た。候補者に「公開質問状を出そうか」と誰かが言うと「それはいいね」という声々が重なった。

議会は首長と新たな関係を模索するときだ

最後に時間切れとなり十分な討議には至れなかったが、日本経済新聞掲載(1月31日)の「議会 地域経営に組み込め」をテーマに神津より話題が提供された。

多摩市議会は全国に先駆けて議会基本条例を制定の折に、この筆者である山梨学院大学、江藤俊昭教授との勉強会を重ねた。条例は【市民・議会・市長(執行機関)の関係】を定義し平成22年3月に可決している。

今回のパルテノン多摩大規模改修計画に対し、議会はその果たすべき重要な役割として、江藤教授が提起している政策過程全体に

わたり議会と首長が政策競争を行うという方向が見えつつある。

今後の特別委員会は、パルテノン多摩の点ではなく、多摩センター地区を面で捉えた活性化計画を市民と共に考え、パルテノン多摩・中央図書館・新市庁舎の30年先をみた、安心できる選択肢の提示が期待できそう。

以下、日本経済新聞の「地方自治制度の課題 首長と新たな関係模索を」のポイントと要点を転載する。

ポイント

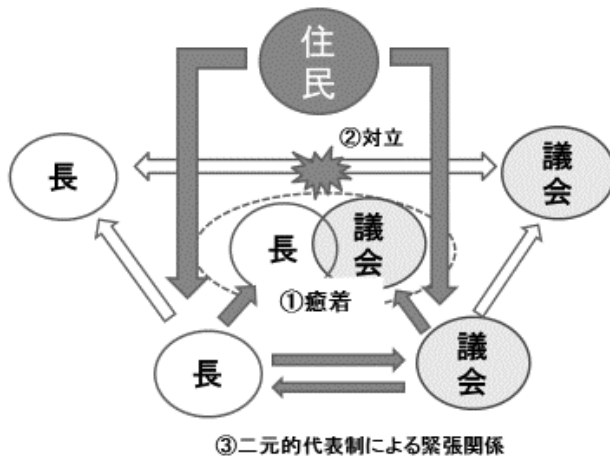
- ・ 首長と議会は癒着も不毛な対立も避けよ
- ・ 議会を討議と決定の場にする必要がある
- ・ 政党が分権化しないと中央集権制は継続

要点

行政改革で流布しているPDCA（計画・実行・評価・改善）サイクルは重要だが、地域経営でのPDCAサイクルの活用は知らないうちに行政的発想へと移動することに留意する必要がある。

新たな地域経営では、討議空間である議会を位置づける必要がある。PとDの間に2つのD、討議（deliberation）と決定（decision）を組み込むことだ。地域経営でPDCAサイクルを創り出さな

地方自治の3つの選択肢(癒着・対立・二元的代表制)



③二元的代表制による緊張関係

- ③もう一つの地域経営＝二元的代表制
- ・ 議会と首長は正統性では対等
- ・ 政策過程全体にわたり議会と首長が政策競争
- ・ 政策過程全体にわたり住民も参加

ればならない。まさに住民参加も含めて討議し決定する空間を創り出すことであり、それを担うのが議会だ。

(中略)

ここで注意したいのは、最善の地方自治制度というものはなく、ベターな制度を意識的に選択する意思が必要とされるということだ。どんな制度でも問題を内包していることを自覚する必要がある。

もう一つは、……政党自体が分権化しな

入会申込書

氏名
住所
電話・FAX
メールアドレス

■会費・カンパ振込先■

みずほ銀行多摩センター支店 1197246
「多摩市議会ウオッチングの会」

■申し込み■

「ウオッチング多摩」の会 代表 神津幸夫
〒206-0034 多摩市鶴牧 3-14-2-102 042-372-9496
HP: <http://watching-tama.com/>

★入会金は必要ありませんが、会報発行等の活動維持のために年会費 2000 円を頂いております。

ければ実質的な中央集権制は継続する。現時点では町村で政党選挙はなじまない。

(中略)

効率性だけを求めるのではなく、地域民主主義の充実の視点から地方自治制度を作動させる意欲を持つとともに、浮上した課題に対して短期と中長期に分けて解決策を探る冷静な思考が必要とされる。

「日本経済新聞」

2017年1月31日